手話に関するアンケート検討会　議事録

日時：平成 26 年 5 月 12 日（月）午前 10 時～11 時

場所：鳥取県庁第 15 会議室（議会棟 3 階）

１　開会

（岡村）只今から手話に関するアンケート検討会を始めさせていただきます。まず最初に障がい福祉課の社会参加推進室長の小西からご挨拶申し上げます。

２　障がい福祉課あいさつ

（小西）はい。おはようございます。月曜日の忙しい中、朝早くからお越しいただきましてありがとうございます。前回、手話施策推進協議会、3 月 25 日にやらしていただきまして、その時に手話施策の推進計画を作っていくんだということで、皆さまのお力をお借りするところであります。その時には、大まかな計画のイメージ、或いは今度のスケジュールとかを確認させていただいたんですが、そのスケジュールに沿いまして、今回アンケートを実施しようということで、そのアンケートの内容について、また皆さまのお力をお借りしたいということであります。今日は全員じゃなくて、小委員会という形で、特に関係の深い方に集まっていただいております。アンケートの中身については、また説明いたしますけども、ろう者向け、それから手話関係者向けを始め、県民の皆さまに広くアンケートをしたいと思っております。11 時までの時間ですけども、どうか忌憚のないご意見をお願いできればと思います。ではよろしくお願いします。

（岡村）では、議題に入って行きますけれども、この後の進行は、小西室長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

３　議事　手話に関するアンケートについて

（小西）それでは石橋会長がちょっと遅れていますので、私の方で進めさせていただきます。お手元に資料ございます。アンケートについてということで、アンケートの中身について検討をしていただきたいと。初めに事務局の方から説明を致しますので、よろしくお願いします。

（秋本）おはようございます。秋本です。よろしくお願いします。資料の 3 ページをご覧ください。手話に関するアンケートについて、アンケートの目的や内容など説明いたします。今日ご相談したいことは、アンケートの設問をどうするかということと、実施方法、どういった形で実施するのかという 2 点です。まずアンケートの目的です。3 月に開催した手話施策推進協議会で、今年、鳥取県手話施策推進計画を策定しようということで始めております。この計画案を検討するにあたって、ろう者、手話通訳者などがこれまで

に経験してきたこと、県民が手話に対してどういう認識を持っているのかということを考慮して、計画を作りたいと思っております。ですので、そういった経験ですとか意識を調査するためにアンケートを実施するということです。2 番目に対象者として、3 つの区分に分けて実施しようと思っています。1 つ目が当事者であるろう者。2 つ目が手話通訳者、手話奉仕員、全通研、手話サークルなどの手話関係者。3 つ目が県民ということです。3 番目にアンケートの考え方として、ろう者、手話通訳者などについては、手話に関して聞こえる人が手話がわからないとか、手話があまり理解されていないという状況で、辛かった、困った経験談、嬉しかった経験談をお尋ねしたいと思っています。辛い、困った経験の中には、どこかに課題があるものです。施策を立案する時というのは、まず課題を見つけて、それを解決するためにどうするかっていうことを考えますので、まず課題を把握したいということです。しかも実際の事例を元にその課題を把握したいということで、こういうアンケートを考えているということです。ただあまりその経験したことも、何十年も前だとちょっと現状と合っていない場合もあるので、大体 10 年以内ぐらいのことでお願いしたいと思っています。それから県民の皆さまに対しては、手話学習に対する認識、意欲を聞きたいということです。手話学習のニーズを把握して、これからどういう形で手話を普及していくかという方向性を考えたいということです。それから、設問はあまり長いと回答する人も結構手間になってしまうので、できるだけ少なく簡潔な内容にしたいと思っています。択一選択式というか、1、2、3、4、とあって選ぶようなパターンであれば、幾らか増えてもいいかなとは思いますが、記述式は設問が多いとかなり大変なので、ろう者、手話関係者分のアンケートは記述式を予定しているので、そっちは余り設問を増やしたくないと思っています。それから 4 番目が設問案ですが、設問案はちょっとまた後で説明します。5 番目がアンケート実施方法です。1 番目にろう者ですが、できれば県聴覚障害者協会で会員からの回答の取りまとめをお願いしたいと思っています。協会の役員の方はもちろんですが、できれば作文があんまり得意でない人の意見っていうのは、これまで行政が意見を聞けていないところだと思うので、そういった人の意見も欲しいなと思っています。アンケートという形を取るので、どうしても紙に書いてもらう形にはなるのですが。例えば、「書いてください。」とお願いして、回答が返ってきても、日本語対応手話というのがありますけど、手話対応日本語みたいな感じになっていて、ちょっと文章だけ読んでもわかり難い場合があるのは確かなので、できれば例えば協会の役員の方がまとめて書いてもらうとか。自分の経験だけではなくて、他の人から聞いた話も書いてもらうといった形の方がいいのかなと思っています。それから 2 番目が、手話関係者でございます。手話通訳者、手話奉仕員。こ

ちらは県がアンケート用紙を送信しますので、FAX、メールで回答をお願いしたいということです。それから次に全通研鳥取支部ですが、全通研鳥取支部で、会員からの回答の取りまとめをお願いしたいと。東中西グループ単位でも結構ですので、そういった形でお願いできないかと思っています。それから手話サークルについては、個人で出されてダメってことはないのですが、サークル単位で、サークルの中にもろうの人が居るので、サークル単位で出してもらうというやり方でもいいかなと思っています。あと県民の場合は、県政参画電子アンケートという制度がありまして、県政モニターみたいな人で、アンケートに回答する、この手話の分だけじゃないのですが、県庁が何か計画を作る時、一般の人の意見を聞きたいという時に回答してくれる人ということです。登録している人が 500 人くらいいて、その人に対してアンケートを実施するというものです。続いて 4 ページからが、アンケートの設問案です。一番最初にろう者向けの設問案があります。問 1 は「社会生活の場面で、コミュニケーション上の配慮がなされていると思いますか？」という質問です。これは昨年、平成 25 年 7 月から 8 月頃に条例案を検討する時にアンケートをやっているんですね。県政参画電子アンケートという先程の分ですが、その時と同じ問いです。これはその昨年度やったアンケートは、一般の方向けだったんですが、ろうの人とか手話通訳者の人の認識はどうかなと思い、設問として入れています。それから問 2 が「手話への理解がなかったために辛かったこと、困ったこと」です。問 3 が逆に「こういう対応があって嬉しかった」ということです。それから次が手話通訳者、手話関係者向けの質問です。問 1 は先程と同じです。「コミュニケーション上の配慮」がされているかどうか。問 2 と問 3 は、手話通訳者の方自身というよりは、ろうの人とかなり近くにいる方だと思っていますので、その手話通訳者の人は「この時はろうの人がちょっと辛い思いをしたな、困っていたな。」ということを書いていただきたい。逆に問 3 は「嬉しかったこと」を書いていただきたい。問 4 は、手話通訳者などの方が「ご自身が手話通訳とか手話学習を行う上で困ったこと。」を書いていただきたいということです。これまでの質問で「一番印象に残っていることを教えてください。」という書き方をしているんですが、これは例えば文章でいくつか項目をダーっと書かれる方もあるんですが、どれが一番かっていうのがそれを見ただけではわかり辛いので一番印象に残っているものを書いて欲しいという書き方にしています。それから 5 ページです。5 ページは県民の方向けのアンケートです。手話の普及だと、県民向けのミニ講座とか、企業向けの手話学習会の補助金などがありますが、これらの参考にしたいということです。問 1、問 2、問 3、問 5、これは昨年の条例制定前にやった内容と同じものです。条例ができる前と後とで、どう変わったのかということを確認したいと思

っています。それから問 4 が、手話を学習したいと思う人にその理由を聞くというものです。それから問 6 は手話学習の頻度でどれぐらいを望んでいるかというのを聞きたいということです。それから 6 ページで、問 7 と問 8 は教育委員会からいただいた設問で、手話ハンドブックを今配っていますので、それを知っているかということと児童生徒にどれぐらい手話が上手になって欲しいと思っているかということを聞くということです。説明は以上です。

（小西）そうしますと、今のアンケートの内容につきまして、設問ごとに 3 つありまして、ろう者向けの設問に関しまして、ご意見をいただけたらと思います。問 1 は、選択で 3 つの中から選ぶ。問 2、問 3 は、記述で書いてもらうと、年代を 3 種類に分けて聞くと、性別も聞くというようなことです。どなたからでもよろしいですけども。

（戸羽）ろう者向けのアンケートの内容を見ると困ることはないですかという質問があります。とても大事なことだと思います。アンケートを元にこれからの施策を考えることが必要と思いますので、正しい情報を皆さんから集めることが大事と思います。その辺りアンケートの回収期間と数をどのくらい、何人ぐらいを回収したいと思っていますか。アンケートの内容を考えたいと思います。この期間が長ければいいのですが、もし短い時には、その考え方、内容も考えないといけないと思います。役員は文章を書くことができると思いますけれども、ろう者に対して、回答と手話での回答が必要になってくる。そういう方法を取る場合には、回収期間も少し長めに必要だと思います。その辺りはいかがですか。教えてください。

（秋本）今、期間として、1 ヶ月間ぐらいはいるだろうと思っていますが、できれば 6 月の頭から末までとか。1 ヶ月では厳しいということでしたら 1 ヶ月半ぐらいまでかなと思っています。

（戸羽）私個人としては、厳しいかな、難しいかなと思いますけれども、協会と相談が必要と思います。また障がい者相談員他にも 2 人おりますので、この 2 人にも聞いてみたいと思います。

（秋本）以前にたしか石橋さんに聞いた話で、6 月の頭ぐらいに日曜教室があると聞いたので、そこで聞いてもらうのもいいのかなと思っています。

（戸羽）なるほどわかりました。

（秋本）ちょっと個別に個々に相談員さんにしても個々に聞いてもらってっていうことは、なかなか難しいのかなぁと思っているので。何か集まりがある時に聞いてもらうっていうやり方なのかなと思っております。

（戸羽）思うのですが、東部、中部、西部。それぞれ会や行事があると思います。東部の場合は、

会で集まってというよりは、内容はちょっと違いますので、アンケートの回収ができるかなとちょっと心配です。西部の場合はこうした会だと思いますので、その場で回収できるかと思います。なかなかその外出とかそういう活動ですと、アンケートの回収というのは難しいかも知れません。

（秋本）ちょっと名前変わったと思うのですけど。以前ろう連新聞というのがあって、あれに折り込んで回答してくださいって言ってもなかなか厳しいですかね。なかなか回答していただけないかなと思って。

（戸羽）ある程度郵送する形の新聞の中に折り込むという形も一つの方法だと思います。石橋協議会長と相談してみたいと思います。中部の場合は会員数が少ないですけれども。東部の場合は、会員数が多い。東部の役員の方ができるかどうか、尋ねてみたいと思います。確認が必要だと思います。中部の場合は、会員の様子がわかっていますので、大丈夫だと思います。1ヶ月半ぐらいでよろしいと思います。

（藤井）東部の場合は、今は生活支援って言うんですけど、月に2回開かれるので、ああいう場面でも聞き取りができるかなと思うんですけど。やっぱり文書で回答をお願いしても、ろうの方の本当の気持ちっていうのは、表現はできないかなと思うので、文書という方法はどうかなと私は思いますけれど。

（後藤）関連していいですか。

（小西）はい。

（後藤）何人ぐらい、さっきあったように人を予定してるのか。

（石橋協議会長到着）

（小西）（協議会長に説明）今、少し始めています。アンケートについて、その内容を事務局の方から説明をしまして。アンケート内の一番初めの4ページ。ろう者に対するアンケートについて、ご意見をお聞きしているところです。先程、戸羽さんの方からいつ頃からいつ頃までアンケートをやるのかと。できれば6月中の1ヶ月。長くて1ヶ月半ぐらいというようなことを考えていると。例えば集まりがある時に聞いていただくというのをやってみたらどうか。東部は数が多いのでどうだろう。あるいは文書で聞くよりもやっぱり直接聞いた方がいいのではないかというご意見があったところです。そのろう者については、聴覚障害者協会で会員さん方からのアンケートの取りまとめをお願いしたいというのが、3ページのところに書いてあるのですが、それを踏まえてのご質問です。

（秋本）後藤先生、もう一回お願いします。

（後藤）何人ぐらい、ろう者は何人ぐらいから回収を考えているのかということです。

（秋本）100人分ぐらいの意見を聞けたらいいなと思っています。新聞を取っている方が300人

ぐらいと聞いているので。

（石橋）新聞は聞こえる人も聞こえない人も一緒に合わせての数ですね、それは。

（秋本）なるほど。

（石橋）よい方法があります。協会でいつも参加する方は、同じ顔ぶれなんですね。そうではなくて、いつも集まっていない人を優先する。その方に対してアンケートした方が、アンケートのニーズが把握できるのではないかと思います。普段集まっている人は、失礼な言い方になるかもしれませんが行動範囲が広い方なんですね。自己決定、自己判断ができる方、そういう方が多いので、同じ回答が出るのではないかと思います。相談員がいますよね。こういった人は行事にあまり参加していない方と会うことがあるんですね。ですので、相談員と言えば、東・中・西部に 3 人いますが、その 3 人に任せるというのも負担になるので、良い方法を考えなければいけないと思うんですね。

（後藤）そうですね。これからの 10 年間の計画、ろう学校の中学部、高等部の生徒も書けるんかなという気はするんですけどね。ろう者も。中高等部の生徒が書けると思うので、やっぱりちょっと参考になるかなと思うのだけど。それはすぐ書けると思いますので。

（小西）石橋さん来られたので、進行の方を会長の方にお願いできればと思います。

（石橋）はい。わかりました。アンケートをする対象は決まっていますよね。特に聞こえない方。100 人と言われましたよね。全体的に何人を希望されますか。全体的には。

（秋本）県民向けの電子アンケートは、だいたい 500 人ぐらいに出して、400 人くらいから回答があります。それと、ろう者と手話関係者で 100 人ずつぐらいと思っています。たださっき言われた通り、ろう者の中でもできれば協会の役員ではない人、これまで行政が何か意見を聞こうとしますと文書で出してくれという言い方が多かったと思うので、あまり文章を書くのが得意でない人からの意見が欲しいと思っています。

（石橋）100 人集まりそうですか。

（戸羽）大丈夫だと思います。

（石橋）わかりました。ろう者 100 人に回答が必要です。以前に相談したんですけど、ろう者向けの質問内容です。ろう者がモデルになって手話で質問をする。そういう案だったんですね。ビデオに撮って、手話を撮って、何かで集まった時に、例えば集まる場と言えば、聴覚障がい者生活支援っていう事業がありますね。東・中・西と 3 ヶ所あります。その場所をお借りしてそのビデオを流す。それを見て回答する。それは、また相談員にお願いしてやるという、その場で書いてもらう方法もあるかと思います。その場合 100 人は可能ですね。

（国広）今の意見で 100 人ぐらいは大丈夫だということなんですけども。先程会長が言われた行

事にあまり参加をしない人たち。そこから意見を聞くことが非常に深い意味があるとおっしゃいました。そうすると行事に参加をしない人たちに、どんな形で会って質問をして意見を取って行くのか。ここも凄く大切だろうと思うんです。その方法はどんなものがあるのでしょうか。

（石橋）会員でない保護者の方、生活支援の方が、半分くらいが参加していますよね。会員の方もいます。その方に手話を使ってアンケートの内容を説明して答えてもらうという方法もできるのかなと思います。

（国広）そういうことであればいいと思います。

（石橋）確かに東・中・西の生活支援事業を見ますと、いつも集まらないんですね。送迎をして、さらに相談員を通して繋がった人が殆どなんですね。ろう者とは言っても難聴者の方もいます。その方についてどうしますか。手話をし始めた難聴者の方。例えば、今までコミュニケーション方法は、手話ではなく、音声でしていた方。聞こえなくなったけど手話がわからなくて、音声でコミュニケーションを取られていた方。ですけども生活支援サービスを通して、少し手話ができるようになった方。その方に対しても質問がいるかどうか。つまり生活支援に集まる時間をお借りして、プラス相談員の訪問で聞き取るっていう調査をするという方法。3 つ目は普段いつも集まっている方。または学生さん。年代的には幅広くなると思うんですね。それがよい方法ではないかと思うんですけがどうでしょうか。

（国広）よいと思います。そのようにして、幅広く意見を聴くということが、今後施策にキチンと反映できることにつながり大変よいと思います。

（藤井）生活支援の場で聞く場合に、みんながいる場で答えられる人もいるんでしょうけど、大多数の意見に押されて自分の意見を引っ込めてしまうことがないようにできたらいいなと思います。

（石橋）聞こえない一人一人に対しての考え方ですね。実際に一回やってみて、次のシーンが必要だと思うんですね。方法としては、DVD を撮る。モデルを撮ってそれを流して、それを見てもらって。支援者が周りにこうそれの様子を見るという。そういう方法をやってみる。もし心配だったら相談員がそこに入るのは必要だと思うんですね。学生さんに対してはどういう方法で進めるべきなんでしょうか。実は、協会の会員に入っていない卒業したばかりの人。書記だけのコミュニケーションですとか。上司に言われても我慢している、会社を辞めていった方。「おかしい」「これおかしい」「わからない」って言える方ではなくて、ここの言えない方。

（後藤）聾学校では卒業生ともつながりがあります。5 年間ずっと行っています。会社に行った

り大学に行って、本人とも話をしています。

（石橋）その方も含めるとアンケートを実施する期間が短いですね。もう 5 月ですから。6 月 1 日からですか。6 月 1 日から 30 日まで 1 ヵ月間ですか。7 月にまとめをする。大丈夫でしょうか。

（秋本）どれぐらいの数の回答があるかによるんですけど、大丈夫かどうかはやってみないとわかりません。ただ、アンケートの期間は一応 6 月中ぐらいかなと思っているんですけど、絶対その期間でないとダメというわけではありません。県政参画電子アンケートは、これ 2 週間ぐらいでできるんですよ。なので、ろう者のアンケートに時間を取るのは大丈夫なんですけど、ただいつまでもというわけにはならないので、2 ヶ月までかなとは思っています。

（石橋）わかりました。ちょっと確認したいんですが、これはあくまでも鳥取県民であって、ろう者とか手話通訳者などの関係者、県民ですよね。

（秋本）県民が対象です。

（石橋）例えば、鳥取県出身で仕事の都合で県外に出た方。大学に出た方。いつかは帰ってくると思うんですけど、その人は対象にするのでしょうか。

（秋本）できれば鳥取県内に在住の方がよいです。

（石橋）わかりました。では、アンケートの方法は大体まとまりましたかね。今、私が言ったのですが、昔々と現状では違うっていう 10 年ぐらいの範囲で決められるということでしたよね。10 年前と現状とを比べて変わったかどうか質問をする。でもわからない、答えられない方が多いんじゃないかと思うんですね。20 年、30 年ぐらいがいいんじゃないかと思うんですけども。

（秋本）高齢者のろうの方が、「わしの小さい頃はな。」みたいな話が出て来るのは、避けたいと思っています。ですので、10 年が 20 年、30 年になってもいいんですが、今もそうだっていう内容であれば、昔の内容でもいいです。昔はこうだったけど、今は変わったけどねっていう話は、外して欲しいなと思っています。

（石橋）10 年前と現状の比較ですね。10 年前だと措置と支援費制度ですね。今は自己決定、自己選択ですが、昔は言われてわからないままそれをするというような。今はそうではなく、手話通訳を通して情報を把握して自分で考えて自分で選択する、自分で判断して決める、そういうサービスの方法になっていますよね。特に昔から施設に入っている方の場合、10 年で比較するのは少し難しいかなと思います。15 年から 20 年ぐらい、そうすれば比較的社会的にも変わっているんじゃないか、変化がわかるかも知れません。10 年だとちょっと変化が少ないのではないかと思います。例えば何が変わったのか、具体的

に「何を」と比較できるもの。何の比較をしたいのか、その質問の内容の方が、例えばテレビに手話通訳が付くようになったからテレビを観る時間が増えたとか。10 年前だと字幕もない、今は字幕があるとか。テレビで手話通訳を通して、内容が把握できるかとか。社会の中で手話通訳派遣があるから、昔と比べて、手話通訳の派遣制度が使いやすくなったとか、難しくなったとか、そういうハッキリ比較できるような質問内容がよいと思います。

（戸羽）1 回目の手話言語条例案検討会の時、ろう者の委員から意見があったと思います。その際、話しかけられた時に私はろう者だからと逃げられてしまったという意見があったと思います。けれども最近になって、違う方ですけれども高齢の方から声をかけられて、構わないよって言いながら身振りで説明をした、そういう事例があったと聞きましたのでそういう比較もできる、啓発という面で比較をするとか。4 ページの設問に「過去 10 年以内に、あなたが経験した「聞こえる人が手話を知らない、手話への理解がないために辛い思いをしたこと、困ったこと」」その問いではなかなか難しいと思います。10 年前と比べて周りに手話のことでどういう見方をされているのか。そういう比較はいかがでしょうか。具体的に問いかけた方がよいのではないかと思います。

（国広）例えば設問内容にこれは書いたとしても、例えば病院でとか、買い物の時、例をいくつか出せば思い当たる人もあるのではないかと思います。

（秋本）ということは、20年前と今を比べて、変わったこと、変わらないことを教えてください、場面としては、職場であったり近所であったり、場面を幾つか出してどれでもいいので変わったこと変わらない事を教えてください、の方がいいということですか。

（国広）その方がハッキリしていいと思います。

（秋本）例えば4ページの問2、問3がありますが、困ったことと嬉しいこと、これをまとめて、変わったこと、変わらないこと。場面は色々あるけど、本当の場面でもよいので、教えてください、の1問にまとめましょうか。設問の数は多くない方が、負担にならないと思うので数は減らしたいと思っています。

（石橋）設問の数を減らしたいというのは、同じ気持ちです。正直に言いますと、問1に色々な場面がありますが、具体的に職場とか行政とか病院など、その時その時のコミュニケーションについてまとめた方がよいと思います。まとめると難しいので、場面ごとに分けた方がよいのではないかと思います。例えば、表にして、職場、近所、行政、良い、悪いなどのようにに丸を付ける方法はどうでしょうか。そうすれば、わかり易いと思います。病院、学校など加えた方がいいと思います。他になにかご意見はありますか。

（秋本）今のろう者向けのアンケートの話だと思うんですけど。基本的には、手話通訳者とか手

話関係者向けのアンケートも同じような設問にしようかなと思っています。こういうことが変わったとか、変わっていないとかという方がいいかなと思いますが。どうですか。

（石橋）どうでしょうか。

（国広）私は、初めこれを見た時にまぁまぁこれでいいだろうと思っていたんですね。というのは、十分に配慮されて①だとすると、まぁ100%ぐらい、80%か90%と考えられるのですが。たぶん皆さんが2番。手話関係者の場合には1番に丸をする人はいないと思います。ここの面はいい、でもこの面はまだだよねっていうのがあると2番かなと思うんですね。ただ具体的にそのデータで、ろうの人と同じようにすると、実際にそういう場面の経験をしていない人もいると思うんです。ろうの人ってどの場面でも経験をしている。でも手話サークルの人っていうのは、場面が限られるような気がするので、こういうデータを作ってしまうと、ここは、はい、はい、でもこれは、ない、ないということになるのかな。そうするとこのままの方が、逆に答えやすいかなと思いました。それを受けて2、3、4、と繋がっていくように思いますので、このままでもいいかなと思いました。

（石橋）他、どうでしょうか。他にご意見はございますでしょうか。手話通訳者とサークル、手話通訳者に対するものと、サークルに対するもの、質問の内容を少し変えてみてはどうでしょうか。

（国広）私は、このままでもかまわないと思います。というのは、理由は、ここに回答する質問の相手先が手話サークルと全通研となっています。これが被っている人は沢山いるんです。自分はどちらの立場で回答すればよいのか分かりにくいということもあるので、まとめていただいた方がいいのかなと感じます。

（戸羽）ろう者にお願いするのは、具体的に特に問1の辺りのところが、あらゆる場面を想定したものにできれば、手話通訳者に対するもの、県民に対するものも同じ表で作る。その方が簡単でいいかなと思います。問2、3、4、については、その場面に合わせて。

（国広）そうですね。データを取るんだったら、質問は同じ方がいいんですよね。特に分析をする時、その立場、立場で見方があると思うので。

（石橋）問1は全て同じ方法で、今後データとして、分析する時によいと思います。簡単にまとめることができると思います。

（小西）すみません。後藤先生が11時から別の会議がありまして、もう少しなんですけども、先生、何かありましたら。

（後藤）大丈夫です。もしも2番目の手話関係者の人数が少なかったら、ろう学校の先生でも加えていいかなと思っていましたが、そこまでしなくてもよいと思います。

（石橋）ではありがとうございました。

（小西）すみません。私も一緒に行きますので。

（石橋）特に県民の関心について私としても知りたいと思っています。それが大事だと思っています。ヘルパーの連絡協議会研修会が鳥取県で開かれました、全国のホームヘルパーが集まったのですが、質問で「？」と思ったことがありました。何かと言いますと、昨年10月に手話言語条例が制定されました。鳥取県として色々宣伝をしています。NHKでも手話のこと、ろう者のことを宣伝しています。研修会の中で、「県民の受け取り方、どれくらい関心を持っているのか、昨年の10月からすぐに皆さんが理解されたのか。」と聞かれたのですが、私は答えることができませんでした。曖昧な答えになってしまいました。行政関係者も県民も全部含めて、59万人のどれくらいに条例に対する関心がどこまで広まっているのか回答を知りたいというのが本音です。この同じ質問をまた次のアンケートにも繋げて同じ質問をすれば、比較ができると思います。

（秋本）5ページの県民向けのアンケートの中で、1、2、3と5の問いは、昨年条例案を検討する時にアンケートをやったんです。7月から8月にかけてアンケートをやっていて、その1、2、3、5っていうのは、その時に同じ質問をしていて、条例ができる前と後で、どう変わったのか比較したいという気持ちで設定しています。

（藤井）県民に対するアンケートの対象者が、この県政参画電子アンケート、つまりインターネットということですか、これは。

（秋本）はい。

（藤井）あの私みたいにインターネット、パソコンに疎い人もたくさんいると思うんです。このアンケートに登録されている方が500人と言われましたが、年代とか幅広くいらっしゃるんでしょうか、これは。

（秋本）計画案を作ったり条例案を作る時にパブリックコメントというやり方をとることがあります。それは、県民から意見を募集するんですけど、インターネットだけに限らず紙に書いてもらうというやり方もあります。ただ、このパブリックコメントは、関心がある人しか出さないという面がかなり強く、一般に手話に関心がない人の意見を聞こうと思うとあまり合わないと言えます。手話に関するアンケートに答えようという時点で既に少し手話に関心があるので。この県民参画電子アンケートっていうのは、特にこの手話に関するアンケートのために集めた人たちではないんですね。何でもというか、福祉以外のアンケートも含めて協力してもいいよという人が手を挙げています。ですので、年代のばらつきは、把握はできてません。ただ一般的な世の中の意見を聞くやり方としては、一番よいのかなと思っています。

（藤井）では、さっきのろう者に対するアンケートの時に話したように、ろう者の中でも行事に

積極的に参加する人は顔が同じと言われたのと、同じことになりはしないかなと思うんです。行政の施策に対して関心がある人が登録をしているという感じですよね。

（秋本）はい。

（藤井）行政の施策に関心がない人にも聞く、さっき石橋さんが言われたように、本当に県民がどう思っているか聞きたいと思うのですが難しいですか。

（秋本）街頭調査みたいなことですね。そうすると、道行く人に聞くという形しかないんですが、そのためには人を雇ったりする必要があるのと、時間が掛かり過ぎるのでまったく行政施策に関心がない人の意見を拾い集める方法は、かなり難しいんだろうと思っています。

（戸羽）3番目の県民向けのアンケートですね。これは手話のことで、以前に電子アンケートでやった。それ以降は、何もやってないんですか。

（秋本）手話の関係ですか？

（戸羽）手話です。手話の関係です。

（秋本）手話の関係はやってないです。

（戸羽）やってないですよね。手話、ろう者のこと、全く関係のない県民の方に以前にアンケートしましたよね。それで今回2回目になるわけですね。手話、ろう者のこと、全く関わりのない方、そういう人方たちが答えるイメージを持っています。ですので、取りあえず電子アンケートで大丈夫じゃないかなと思います。ただ、繰り返し、質問した場合、顔ぶれが同じですよね。そうなると思うんですが、今回2回目なので、大丈夫なのかなぁと思います。お願いしたいんですが、条例が制定された後、関心が高まりましたかという内容、それを付け加えていただきたいんですけども。

（秋本）わかりました。

（石橋）ろう者も手話通訳者も県民向けも全てに同じ質問。「条例が制定された。そのことを知っていますか。」という質問。例えば500人に質問して何人ぐらいの方が、何%の方がこのことを知っておられるか、それも把握したい。600人ですね、合わせて600人の方の回答ですね。600人の方全員に質問して、それで何人の方が知っておられたっていう割合を何%。何人の方が、何%の方が知っているのかということが把握できますよね。その上で施策に盛り込んでいく。

（国広）アンケート内容はわかりましたが、回答はどういう形ですか。解答用紙が別にあるんですかね。

（秋本）4ページですよね。

（国広）はい。4ページ。

（秋本）質問があって、空欄があって、質問があって、空欄があってという解答用紙を作ろうと

思っています。問1は、表がつきます。表がある。問2は、空欄でそこに書いてもらうという形を。

（石橋）他にありませんか。質問はいかがですか。

（藤井）細かいことなんですけれど。県民に対するアンケートの問5の③なんですけど、“簡単な文章”と書いてあるんですが、文章で日常会話に関するっていうのも変だなぁと思って、簡単な内容で日常会話に関するとした方がいいのかなと思いました。

（秋本）わかりました。

（藤井）それともう一つ。問1に出てくるのですが、「手話を言語として使用する方々」という表示。下の方になると「ろう者」という表し方もあります。県民の人はわかるんでしょうか、「ろう者」って浸透している言葉ですかね。それともう一つ、県民に対するアンケートの問6で、細かく区切ってあるんですけれど、月に1回程度の次に2ヶ月に1回、6か月に1回ってなんか凄く具体的ですけど、これらをまとめて数か月に1回とした方が考えやすいかと思うんですが。

（秋本）5ページの問5で「簡単な文章」を「内容」にということはわかりました。それから問1、手話を言語として使用する方々ですね。「手話を言語として使用する方々」という表現と「ろう者」という表現が両方あります。「ろう者」で統一をして「ろう者」というのは、こういう人ですという注意書きを最初に入れます。それから6ページ。

（石橋）問1は、ろう者向け、通訳者向け、県民向け、同じ質問ですよね。全部の言葉を統一するということですか。

（秋本）ろう者向け、手話通訳者向けはろう者と書けばわかると思いますので、それだけでよいです。県民向けは、わからない人がいるかも知れないので注意書きを入れます。次6ページですね。一番上のところは、手話の学習をどれぐらいの頻度でしたいですかという質問で、2ヶ月に1回程度、6か月に1回程度を合わせて、数か月に1回程度とします。

（国広）5ページの問3。ここで1が2「思わない」。これは1に丸をして「思う」は問の4、5、6と繋がっているので、一般的に次は問4、5、6に答えてくださいと書いた方がわかりやすいのか、あるいはこういう電子アンケートを取る時にはこんな形でも大丈夫なのか。

（秋本）電子アンケートなので、例えば問3、「手話を学習してみたいと思いますか」で、「思う」を選択した時にだけ、4、5、6が出るというやりかたもできると思います。「思わない」を選択したら次の問は出ないとか。設問だけ考えておけば大丈夫です。

（国広）わかりました。

（石橋）その部分「手話学習会をしてみたいと思いますか」で、「思わない」という答えをした方に対する設問も加えていただくようお願いします。設問内容については、これくらい

でよいかと思います。問題はDVDの作り方をどうするかです。手話の撮影ですよね。早く作らないといけないですね。5月中には作らないといけないと思いますが、ろう者向けだけでいいと思いますので、問1、2、3。短く終わると思います。以前事務局が言われていたのは、インターネットのホームページに質問の内容をアップするという案、そういう話はどうなりましたか。

（秋本）確かにインターネットにアップする方法も考えたのですが、自分でインターネットを見られる方であれば、きっともう協会やサークルに加入しているように思うので、インターネットにはアップしなくていいかなと思っています。ただ、講習会のような所で流すのであれば、動画は必要と思っています。誰がいいとかありますか。誰が出演した方がよいとかありますか。手話チャンネルは、本家さんが出ていますけど。

（戸羽）高齢者の方が見てもわかる方法がいいですね。石橋さんがピッタリだと思います。

（石橋）私はこういうイメージがあると思いますので、その辺りは表情もやわらかくしながら作製していただけたらと思います。本家さんもよいと思います。高齢の方にもよくわかると思います。ただ、アンケート内容の検討にも関わったこの委員の中から選んだ方がよいのかなと思います。今日の内容を踏まえて修正をしていただき、その後、内容を改めて確認ですね。集まるのではなく、メールで皆さまにお知らせして設問を確定したいと思います。次に手話DVDの作成です。それは可能でしょうか。

（秋本）大丈夫です。

（石橋）他に、時間も過ぎておりますが、何かありますか。事務局として最後に何か連絡はありますか。

（秋本）連絡ではないですが、引き続きご協力をお願いします。

４　閉会